

道路独裁

星野 眞三雄 著

講談社  
1995円

本棚から一冊



川本 裕子

評者 早稲田大学大学院教授

日本の高速道路は一体どうなっているのか？ 2002年の道路公団民営化委員会の議論と今井委員長の辞任、03年の民営化案決定の際の2委員の辞任と05年の民営化会社の発足、08年の道路特定財源・ガソリン暫定税率問題の「衆参合わせ国会」での紛糾。09年に入ってから末期の自民党政権下での国幹会議による全国高速道路整備の「03421」の延伸決定、未曾有の危機に対処する道路打った経済対策による高速道路料金的大幅値下げ。さらに民主党政権による高速道路無料化政策の採用と国幹会議の廃止。国民がしはしは置いてきぼりを食うようなまぐ



櫻井よしこ氏推薦!  
「道路公団民営化のつらさの  
本質を徹底的に追求した  
究極の政治小説」

して議論に参加した当事者の一人だが、その立場から読んでも、7年間の問題の展開をロットして見る筆致に、近來まれに見る迫力を感ずる。議論に関わった様々な人物の発言を詳細に追ひ、内部資料やテープを検証している。著者が出現した。著者はメディアに公開された道路公団民営化委員会のマラソン議論のプロセスを究明し、フォロワーした新聞記者、書評体制というが、その基層にあるのは道路建設

日本の政治、社会、巨大な闇浮き彫り

と政治の関係であるし、少なくとも地方では依然、道路建設に関わる既得権益は政治構造の一部として根深く残存している。そこから目をそむけず、問題の本質を正面から見据えることの大切さを本書から学ぶことができる。本書に描かれたトランプは現在進行中だ。リンクリットから入る。をスローガンに誕生した民主党政権が、国民から大きな支持を獲得したその政策をどのようにに実施していくのか、大いに注目されるが、下手すれば国民の期待と「道路予算を寄越せ」という自治体の大合唱の板挟みとなる。国民の支持が少ない高速道路の無料化はトリッキーにも思える。道路問題は未だに終わっていない。戦後政治が新たな高潮を迎えている今日、本書は貴重な貢献である。